

神戸市総体開催時の暑さ指数（WBGT）に関する共通理解事項

【暑さ指数とは】

熱中症の危険度を判断する数値として、暑さ指数（WBGT）は乾球温度計、湿球温度計、黒球温度計による計測値を使って計算される。

日常生活に関する指針		
温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃※)	中等度以上の生活活動で おこる危険性	運動や激しい作業をする際は 定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には 発生する危険性がある。

【市総体中の計測について】

- 選手が活動するグラウンドに黒球式暑さ指数計を、大会本部には室内用暑さ指数計を置く。
- 大会開催中は、1時間おきにグラウンドコンディションとともに暑さ指数をアナウンスで周知する。

※WBGT が 31℃を超えなくても暑さに不安を感じたり体調が悪い場合は、決して無理をせず、顧問や保護者とよく協議の上、出場の可否を判断してください。

【市総体の熱中症対策について】

- 番組編成でリレーを含む 400m 以上の周回種目については、全てタイムレース決勝とする。
- 13:00～15:00 の間は競技を行わない。
- 空調の効いた更衣室でクーリングダウンを行うことができる。
- 招集所に扇風機を置いたり、ゴール後のダグアウトにアイスバスを設置する。
- 競技場内では、ダグアウトやテント下で待機できるようにする。場合によっては、芝生上に散水する。

【市総体開催中に WBGT が 31℃を超えた場合の対応について】

- 競技中に WBGT が 31℃を超えた場合は、その種目の競技は最後まで行い、競技終了後は、次の競技を止めてその後の対応を大会本部で協議する。※WBGT が 31℃を超えた段階でアナウンスする。

○競技が中止もしくは、順延になった場合の対応表

①競技開始前	1 日目	開始前の競技は順延日に延期し、全てタイムレース決勝で行う。 ＜注意事項＞男女低学年リレーに関しては順延日の第 1 種目に行う。
	2 日目	開始前の競技は順延日に延期し、全てタイムレース決勝で行う。
	順延日	予定されていた競技は全て中止。対応 A へ
②準決勝成立前 (100m 予選終了時点)	順延日に延期（準決勝・決勝を行う） 順延日が中止になった場合は対応 B へ	
③決勝成立前 (200m、ハードル予選・ 100m 準決勝終了時点)	順延日に延期（決勝を行う） 順延日が中止になった場合は対応 B へ	

※順延日は、7 月 14 日（月）ユニバー記念陸上競技場にて 15:00～競技開始の予定

対応 A 神戸市総体ターゲットナンバー制度を適応する。

対応 B ラウンド終了時点（200m、ハードル予選・100m 準決勝終了時点）の記録上位 6 人が出場権利を得る。

【市総体ターゲットナンバー制度（対応 A）について】

参加種目の今年度に出した公認記録（6 月通信大会まで）を基準に、記録上位 6 人もしくは 6 チームが 7/26-27 に行われる県総体への出場権利を得る。ただし、権利を放棄する場合は次点の選手がその権利を得る。

【特別対応について】

- ターゲットナンバー制度適用となった場合、市総体にエントリーしている同一種目において通信大会等で全国大会出場が決まっている選手については、県総体への出場権利を得る。

※ただし、同一種目で 7 人以上全国大会出場者がいる場合は、その限りではない。